

日本橋展示会(ブリッジ新潟)に 3100 人超！

2月の匠会展示会としてすっかり定着した、東京日本橋での「鍛冶職人打刃物の世界展」。包丁研ぎを待っていたお客さんや、5月の上野公園広域観光フェアで刃物ファンになってくださったお客さんたちが、今回も初日から大勢つめかけてくださいました。

好天にも恵まれ、入場者数は過去最高の3100人超となり、鉋削りやノミのキツツキ体験は順番待ちが出るほどの盛況ぶり。鍛冶職人の奮闘ぶりはケーブルTVでも紹介されてお茶の間にも流れました。初めて観光協会まちの駅よいたが参加して、与板のおいしい米や笹団子などをPRしたことも、にぎわいを生む結果につながったようです。

今後もくふうを重ね、お客さんとのコミュニケーションをだいじにして、与板刃物ファンをふやしていきたいものですね。継続は力なり。がんばりましょう。



新潟県「ふるさと割」で通販売上がアップ

期間限定で県の認定したふるさと商品を価格の3割引で提供するという「ふるさと割」が先月2月で終了しました。この際に欲しかった与板刃物を買っておこうと、通販で本格的な鉋などを求める件数が増え、

こうした特別企画を待っている方々がいらっしやるということであらためて知りました。

また嬉しかったことは、新発売した女性向け工具「TANTON」の鉋を転勤する工事部の女性に贈り物としたい、という注文が舞い込んだことです。さっそく箱にリボンをかけて発送。こうして皆で苦勞して作り上げた道具を、実際に女性の手に届けるということの嬉しさを、何かわくわくする思いで感じたひとときでした。

与板の技を未来へとつなぐ挑戦者 来たれ！

「地域おこし協力隊」募集の計画が今動き出しています。私たちにとって最大の問題後継者育成にこの企画が光明をもたらすかどうか、果たして応募者があるのかどうか、目が離せません。

ここ2～3年が与板刃物の技術を次世代に残せるかどうかの節目。若き挑戦者が手を挙げてくれることを願い、今後は次世代のために何ができるかを、私たちが行動で示すのみ。

